

Nara Women's University Digital Information Repository

Title	[19世紀フランス小説における女性とセクシュアリティと子供像 はじめに, 研究概要他]
Author(s)	高岡, 尚子
Citation	19世紀フランス小説における女性とセクシュアリティと子供像
Issue Date	2009-03
Description	
URL	http://hdl.handle.net/10935/1074
Textversion	publisher

This document is downloaded at: 2017-10-21T10:16:24Z

はじめに

小説という新しい文学ジャンルが確立、定着した 19 世紀フランスにおいて、女性と結婚というテーマに関して、際立って強い関心が寄せられていたことは注目に値するだろう。結婚についてさらに具体的に、前段階、継続時期、その後、という時間軸に沿って考えるなら、恋愛・セクシュアリティ・出産 (reproduction 生殖)・子供という複数の段階に注目することができる。本研究においては、女性の人生を時間軸に沿って段階ごとに分析するのではなく、逆の方向からのアプローチを試みた。つまり、小説に描かれる文学表象としては、従来あまり注目されていない「子供像」の分析から始め、時間を遡上する形で女性のセクシュアリティと生殖の問題に進み、そこで得られた結果から恋愛と結婚の問題を考えるという方向を採用した。そして、最終的には、19 世紀フランス小説が提示した「子供像」の特徴へと考察を進めた。

このような全体構想のもと、科学研究費補助金を得て行った本研究課題「19 世紀フランス小説における女性とセクシュアリティと子供像」(基盤研究 C)は、「19 世紀フランス小説に描かれる子供像の収集・分析」→「母となる女性の描かれ方の分析」→「19 世紀フランスにおける女性の位置付けの検討」→「小説に描かれた子供像の検討」という手順で分析を進めた。

分析対象としては、まず、本研究代表者が長年研究に取り組んできた 19 世紀フランスの女性作家ジョルジュ・サンドの作品に注目した。というのも、そもそも「子供像」に注目しようと考えたきっかけが、サンドの作品に多くの子供が登場し、その存在が、作家が常に追求し続けた「社会における女性のあり方」の問題と深くかかわっている印象を持っていたためである。また、サンド作品の特徴に注目することで、女性作家が描く女性と子供像と、同時代の男性作家のそれとの比較という視点の導入が可能になった。

19 世紀フランス小説における「子供像」の収集を進めた結果、予想通り、子供たちそのものには独自の個性や人生が与えられることはめずらしく、親との関係によって登場させられ、語りの題材とされていくことが明らかになった。従って研究は、「母親」側の類型化と、そこに現れるセクシュアリティの問題に重点を置いて進められることとなった。そのために、まず第 1 部では 19 世紀フランス小説における子供像を類別、概観し、第 2 章においてそれらの子供たちを切り口に、母親の側から分類することを試みた。続く第 2 部では、特に本研究課題の主眼である「女性とセクシュアリティ」の問題に取り組むべく、「女性と子供」にまつわる事柄、つまり、生殖活動としての性行為が当時の女性にとってどのような問題をはらんでいたかという問題や、女性による「産むこと」・「産まないこと」の選択、「母になること／であること」の意味、また、母であることに対する社会的要請はどのようなものであったか、などについて検証している。第 3 部では、単独で存在感を發揮するように描かれた「活躍する子供像」を、サンドやユゴーの作品を中心に分析している。

本研究では、子供との関係を切り口に女性(母)人物を分類するという、これまでにない手法を導入することにより、新たな分析方法を提示することができた。だが、時間の制約もあり、扱う作品の多くは 19 世紀半ばまでのものとなった。世紀後半の小説作品に現れる子供像と女性との関係については、今後の課題としたいと考えている。

平成 21 年 3 月

奈良女子大学文学部准教授 高岡尚子

★ 研究概要

- ・研究機関名 奈良女子大学
- ・研究種目名 基盤研究(C)
- ・研究機関 平成 18 年度～20 年度
- ・研究課題名 19 世紀フランス小説における女性とセクシュアリティと子供像
- ・研究代表者 高岡尚子（奈良女子大学文学部准教授）
- ・研究経費 平成 18 年度 600 千円
平成 19 年度 700 千円
平成 20 年度 500 千円
計 1,800 千円

★ 研究発表

[論文発表]

1. 「どの子供たちが生き残ったか？—ルソー『新エロイズ』からジョルジュ・サンド『ジャック』へ—」, 奈良女子大学文学部外国文学研究会『外国文学研究』第 25 号, 2006 年 12 月, pp.85-110.
2. 「ジョルジュ・サンド『アンドレ』を読む—フェミニズム批評・ジェンダー批評から—」, 奈良女子大学文学部『研究教育年報』第 4 号, 2007 年 12 月, pp.23-33.
3. 「女性の社会と身体—ジョルジュ・サンドの初期作品における〈産む女〉・〈産まない女〉」, 柏木隆雄教授退職記念論文集『テキストの生理学』, 朝日出版社, 2008 年 3 月, pp.231-243.
4. 「ジョルジュ・サンドの作品世界にみる母と女のセクシュアリティ」, 奈良女子大学文学部『研究教育年報』第 5 号, 2008 年 12 月.
5. 「母—娘関係が語ること—ジョルジュ・サンドの小説作品を通して—」, 大阪大学フランス語フランス文学会 *Gallia*, 第 48 号, 2009 年 3 月, pp.31-40.
6. 「ジョルジュ・サンド『アンドレ』・『オラース』に描かれる 19 世紀フランス女性労働者たちの空間」, 大阪府立大学女性学研究センター論集『女性学研究』16, 2009 年 3 月.

[口頭発表]

1. 「『新エロイズ』、『ジャック』、『二人の若妻の手記』における母—女—子供たちの配置から見えるもの—」, 日本ジョルジュ・サンド研究会, 明治大学, 2007 年 5 月 19 日.
2. 「ジョルジュ・サンド『アンドレ』・『オラース』に描かれる 19 世紀フランス女性労働者たちの空間」, 大阪府立大学女性学研究センター主催 2008 年度第 1 回女性学コロキウム「文学とジェンダー—19 世紀フランス労働者階級と女性作家」, 大阪府立大学, 2009 年 1 月 10 日.